

**イニャンバネ・ギウア宣言**  
**モザンビーク全国農民連盟 UNAC 年次総会 2013 年**  
**2013 年 5 月 7 日～9 日**

25 年以上も農民男女の社会的・経済的・文化的な権利のために闘い、食料主権のため闘ってきたモザンビーク農民運動であり、8 万 7 千人を超えるメンバーを代表する全国農民連盟 (União Nacional de Camponeses: UNAC) は、モザンビークのすべての州の男性・女性・若者、農民のリーダーらから選ばれた 80 名以上の派遣団や招待者の立ち会いの下、2013 年 5 月 7 日から 9 日の間、イニャンバネ州ギウナの人道促進センターに集い、2013 年度の年次総会を開催した。

我々は、この国並びに農民運動の基本的問題を話し合ったほか、重要な戦略的ツールである「2012 年度活動・会計年次報告」と「2013 年度活動年間計画並びに予算」を分析し、これを承認した。また同様に、我々は、農民運動における焦眉の課題であり活動である、モザンビークにおける土地紛争、そして自然災害、開発並びにメガプロジェクトのコミュニティへのインパクトという現状に直面するための戦略について、深く広い検討を行うことをアジェンダに掲げた。

イニャンバネでの集会の間、最近モザンビーク政府によって発表された農業部門投資国家計画 (Plano Nacional de Investimento do Sector Agrário: PNISA) と ProSAVANA 事業についての討論を継続し深めた。

UNAC が入手した最新の情報によると、ProSAVANA 事業は 1450 万ヘクタールの面積、ニアサ、ナンプーラ、ザンベジア州の 19 郡を対象にした事業である。これに関する検討と討論により、我々 UNAC のメンバーである農民男女は、ProSAVANA 事業に関する注意を強化し、それに対応するための戦略を決め、全国の農民男女のほとんど全面的な排除と不在の下で承認されようとしている農業政策への代替案を提案する。

過去 2 か月、UNAC は、モザンビーク政府、日本の外務省、JICA として知られる日本の国際協力機構の代表者ら、ブラジルの国際協力庁 (ABC)、駐モザンビーク日本大使、駐モザンビークブラジル大使との面談や対話を拡大し、ProSAVANA 事業に関する討論を行ってきた。草の根レベルから、郡や州レベルの集会までの多様な討論の結果、次の点で多くの矛盾があることが明らかになった。それは、入手可能な情報の不十分さ、(事業の)設計の欠陥を示す兆候や証拠、公衆との協議と参加のあるべきプロセスにおける不正 (irregularities)、農民の土地の強奪やコミュニティの強制的な除去への差し迫った深刻な脅威である。

PNISA に関して述べるならば、我々は、この文書が、その構想の段階から、公衆の参加するプロセスや空間、そして農民運動の中で、広く議論がなされてきたものであることを表明したい。PNISA は、モザンビーク政府のためのものであり、PEDSA (農業部門開発戦略計画 Plano Estratégico para o Desenvolvimento do Sector Agrário) の運用のための重要なツールである。しかし、我々 UNAC の農民闘士らにとっては、PNISA は不十分であり、PEDSA の 4 つの柱のための戦略すべてを満足させるものではない。我々は、イニャンバネでの年次総会で議論された「**家族経営農業支援国家計画 Plano Nacional de Apoio a Agricultura do Sector Familiar**」の採択こそを擁護する。

また、ニアサ州やその他の州で生じているモノカルチャー植林の急速な拡大、テテ州の再定住地で生じている農民の権利の侵害、数々の土地紛争は、我々に大きな懸念を与えている。例えば、ProSAVANA 事業について述べると、同事業対象地の農民男女らは、ナカラ回廊沿いの将来について多くの不正と不安を問題視し、非難している。

我々、モザンビークの農民男女は、憲法が保証する権利の実現のための闘いに関与するとともに、家族経営農への不可分なコミットしていくことを再確認した。我々は、我々の国の開発の基盤として農業を位置づける憲法の規定に完全にに基づき、また方向づけられ、闘いにおいて確固たる姿勢で臨み続ける。

メガプロジェクトへの政府の変更なき行動は、農民らの生活の基盤を犠牲にし、多国籍企業といった大きな権力者らを過度に裨益することになろう。メガプロジェクトが貧困を削減すると誤解している人や機関があるようだが、UNAC は、これらの収益が国民所得の公正な分配をもたらさないことを理解している。例えば、家族農業(日々の食料生産)などの他セクターの活性化という観点からは、これらのメガプロジェクトは農民の貧困化を深める可能性があるため、効果は正反対なものになるだろう。

我々、農民男女は、テテ州で起きたように、我々の土地から追放され、他の地域に移転させられ、再定住させられることを恐れている。我々は、我々の土地やコミュニティの過度の占領に対して、我々自身を動員し、抵抗しなければならないと考える。民衆の強制的な除去と移転は、自然や土地と共に我々が培ってきた関係や生活のサイクルの停止や破壊、それに対する暴力を意味する。

2013 年の UNAC 年次総会は、農民男女が、土地紛争、土地の強奪現象、鉱業の大規模投資プロジェクトの導入によって行われる強制的な移転などの増加といった、巨大な課題に直面している最中に実施された。我々は、鉱業のメガプロジェクト、モノカルチャー植林、家族経営農業への支援政策の不在によって生じる土地の強奪といった、目の前にある、我々を貧困に追いやる諸々の課題に気づいている。

我々は、これらのプロジェクトを大いなる懐疑の目で眺める。それは、多くの理由と疑問によるが、なんといっても、企業との間で土地を巡る紛争や係争の状態に農民が置かれ、苦しめられるという、現実の事例が既に証拠としてあるからである。これらすべての問題により、耕作や生産、そして生産向上のための農地は減らされるであろう。そして、農民らは、やる気を減退させられ、士気喪失を起こされ、彼ら自身の農業実践を強制的に放棄させるプロセスによって自らを疎外させられ、最終的に単なる安い労働力に転じられるだろう。

イニャンバネでの年次総会において、我々全国の農民男女は、メガプロジェクトが農民に有害なものとならないよう闘うため、自らの組織化能力を強化する。我々は、モザンビークの法律によって保証される民主的で公平な協議の実施によってこれを実現しようとし続ける。

もし公衆への協議やその参加プロセスが、これまでと同様に操作され続け、効果をもたないままであるのであれば、農民男女は土地とコミュニティを守るための闘いを強化し続けるだろう。農民男女にとって、土地とそこに育まれる共有財産(コモンズ)は、我々並びに国民の財産である。まだ、我々の現在及び将来の息子や娘や、すべてのモザンビーク人男女のための遺産である。

民衆の闘いにおいて疲れはあり得ない！我々の犠牲と共に、我々の目的は達成され、我々が意図した成果は達成されるであろう。我々は、ナショナルな解放闘争の最も難しいモーメント以来、今日まで取り組んできたように、アグロエコロジカルで環境保全型の家族農業並びに小農農業を発展させる闘いを固く守り続ける。手に鋤を持ち、大地に足をしっかりとつけ、より良く実行可能なモザンビークを夢見る。そこでは、農民の息子たちや娘たちが、我々の闘争によって解放された土地を身近に感じるであろう。

統一された農民は常に勝利する  
イニャンバネ、2013 年 5 月 9 日  
UNAC(全国農民連盟)